



## 「かつての宿場町の賑わい再現」の願いを込めた 名鉄・知立駅周辺の大再開発事業が佳境に突入!!



名古屋市に隣接する知立市の周辺はこれからの発展がさらに期待されるエリアだ

今回の現場は愛知県知立市の名鉄名古屋本線・知立駅周辺。ここでは現在、「100年に1度」のキャッチフレーズと共にかなり大規模な再開発事業が進められている。

100年に1度という文言は、渋谷駅周辺の再開発事業でもキャッチフレーズに使われていた。それはJR・京王帝都・地下鉄銀座線などの現在に至る渋谷駅が、1900年代の初めから1920年代にかけ続々と造られていった歴史を踏まえた、「約100年ぶりの大変化」という意味での「100年に1度」だった。

それに対し名鉄名古屋本線・知立駅周辺の再開発は、関係者の話などを総合すると、知立駅の創設（1959年）から半世紀強が過ぎた現時点で、さらに半世紀先までの隆盛を見据えた大再開発事業なので「計100年に1度」というようなニュアンスがあるようだ。

ま、そんな言葉尻の問題はともかく、実際問題、かなりのスケールの再開発事業であることは間違いない。

写真は知立駅周辺の連続立体交差事業の現況だが、建設中の高架は3層になっており、名古屋本線に加え、名鉄三河線が知立駅から2方向に延びていることから、計3路線の線路とホームが各層に設置されることになっている。地方の私鉄の駅で、これだけ大規模な連続立体交差事業はなかなかない。都内近郊では2012年に竣工した京急蒲田駅の3層構造とよく似ている。

この連続立体交差事業は2028（令和10）年度に竣工予定だが、併せて周辺地区の市街地再開発事業もセットで行われており、駅前北側地区には2019（平成31）年に地上21F建の再開発ビル《エキタス知立》が、知立駅北側300mの中町銀座地区には地上12Fおよび10Fのツインビル《リリオN棟・S棟》がやはり完成済みだ。

知立（ちりゅう）はかつて、東海道53次・池鯉鮒（ちりゅう）宿として賑わった。今回の再開発には池鯉鮒宿の賑わいを現代風に取り戻すというサブミッションもある。その完成が待ち遠しい。（業平）